

山と博物館

第44巻 第6号 1999年6月25日 市立大町山岳博物館

特集 「木芸と彫彩—40年の軌跡—高橋貞夫展」 7/11~9/5
TAKAHASHI SADAO ART EXHIBITION

師は樹なり

高橋 貞夫

爺、鹿島槍ヶ岳の懐の、ななかまどの連なる街の工房で静かに作品を見つめていると、一作ごと樹と真剣に対峙した姿が甦る。生家に工房を構えて三十六年、木と語らいながら四五年が過ぎたが、この世界ではまだまだ若輩。好きな仕事とはいえ余りに奥深く、学びの日々を過ごしている。

私は一五才から二三才まで上田市で暮らした。総てがままならない徒弟制度の厳しい研究所で、木彫の道を必死で学んでいた。時にはその辛さを、研究所近くの千曲川へ捨てにいった。河原の石に座ると、故郷のアルプスがかすかに見えた。長閑な上田とは違う雄大で凜とした故郷を懐かしく思い、甘える父母も亡く、ひたすら木彫の技術を身

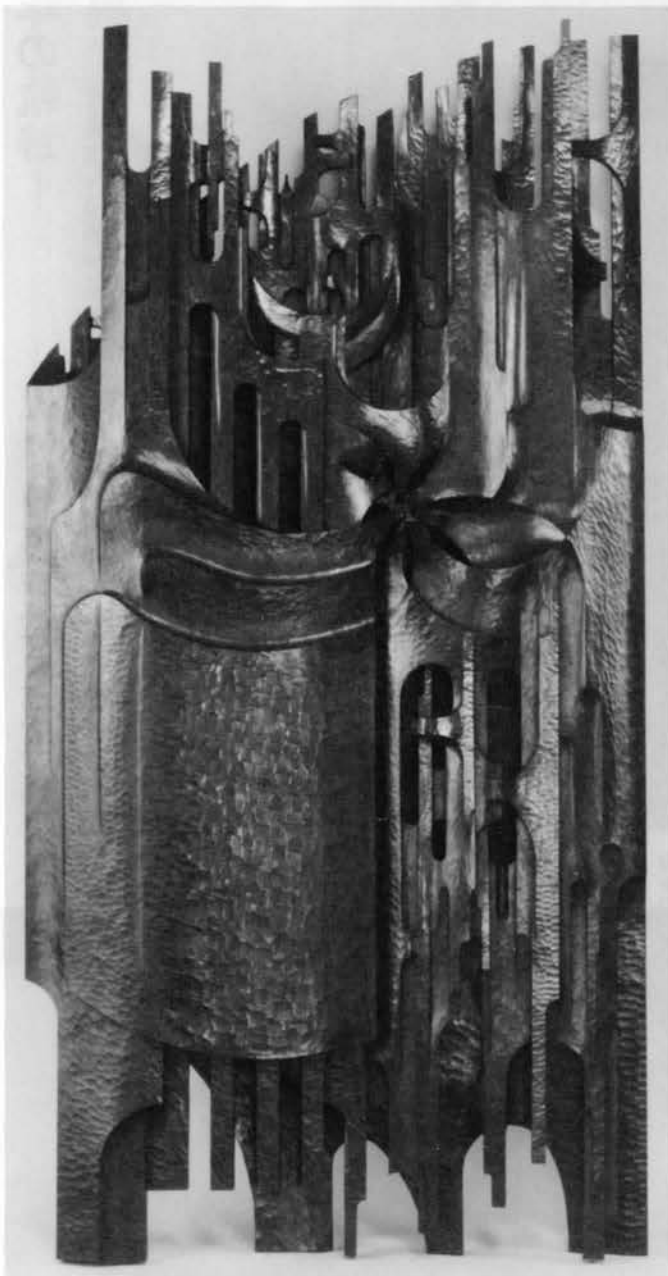
体にたたき込んだ修業時代であった。

八年振りに戻った大町は新鮮で、聳え立つ嶽から吹き下ろす風雪は、肌冷たく厳しく沁みだ。やわらかい朝日を迎え、牙え渡る星座を仰ぎ、空の彼方に広がる世界に思いを馳せる。目に触れる総てが師となる自然の美は感動を呼び、イメージを湧かせた。

天地万物が教えてくれる無数のドラマを、彫刻してきた。今も、展覧会用の桂の大木が目の前にある。板に図を写し、木取るとほっとする。この時点で自分の中に完成図が見える。これから沢山の木っ端に埋もれて暮らす。木は生きている。削り取った木は元には戻らず、木目に逆らうと綺麗に仕上がらない。刀は切れないと、より力が入る。木が語りかけてくる、それに答える。試行錯誤の連続、苦しい中にも楽しい日々となる。

完成した木彫作品の前で、自分はとう向き合うだろう。

(日展会友)



大地樹空 [Daichijyuku] 200×100 高橋貞夫

「木芸と彫彩

—40年の軌跡—

高橋貞夫展「より

高橋貞夫

故郷は岳の町。町中どこからも望める蓮華、爺、鹿島槍連峰は、常に生き生きとした

雄姿を現している。

岳に魅かれて、大勢の登山家が大町を訪れる。特に夏は、真つ黒に

日焼けし、ずつしりした登山靴をはいた老若男女が町中を闊歩する。お昼に食べたラーメンとお酒の匂いを漂わせながら。

ある日、工房の壁に掛けられた槍ヶ岳の板額の前で、気軽な旅支度の年配の夫婦が足を止めた。「そうそう、若い時、この稜線を通ってやつと槍へ登ったよ。」

思い出を重ね、懐かしそうに語る声に、青春時代岳から岳へ黙々と歩いた自分と、雄大な岳の気高さを思い出した。

岳は正確に彫らなければならぬ。雲を霧を雪を朝焼けを、どう表現しようかと迷う。岳を彫るのは難しい。



鹿島槍ヶ岳と五竜岳 [Kashimayarigatake to Goryudake] 170×115

樹心交響 [Jyushinkokyō]

雪の嶽から

烈しく木枯らしが吹く

かさかさとした最後の葉が落ち

木々は裸を晒し

清冽な湖面は波を打つ

虫たちは土中深く潜りこみ

鳥たちは

まだ生々としている

さるすべりの赤い実を啄む

寒色の安曇野を

自然の奏でる交響曲が

流れていく

心打つ

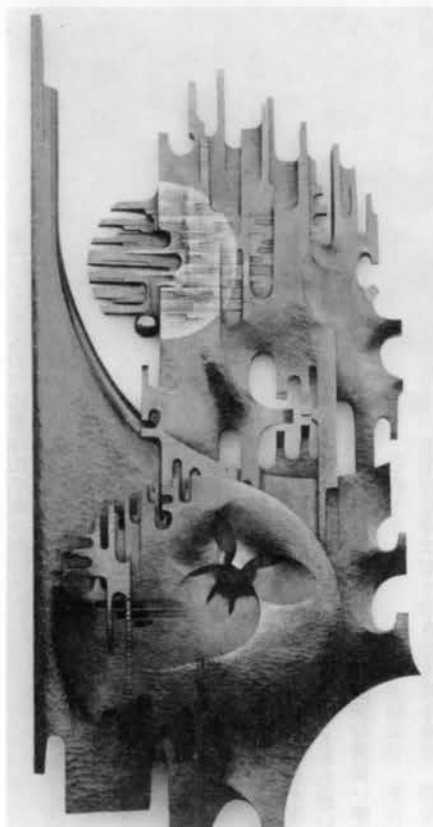
生命の讃歌に耳を澄ます

樹空感 [Jyukukan]

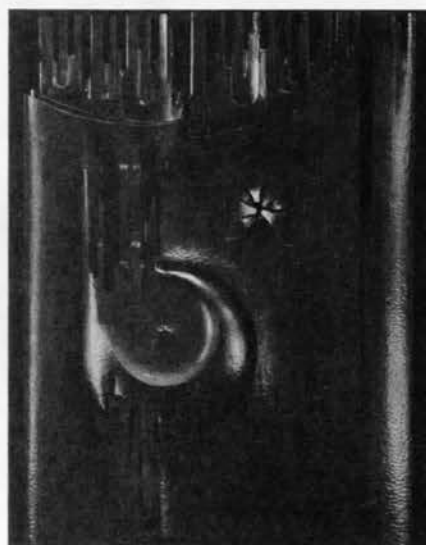
新雪に輝く嶺々 そびえ立つ 色とりどりの樹 仰ぎ見れば 紺碧の空

無限に広がる世界 目に映らぬ 神秘の空間は 想像を膨らませ

心のままに 感じることでできる大地 大きな感動を覚える



樹空感 180×90

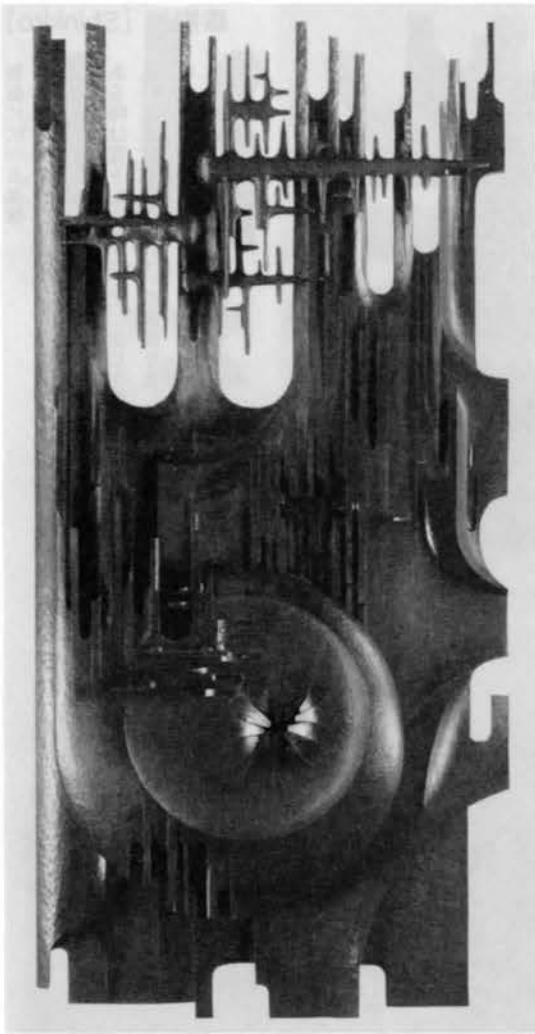


樹心交響 160×120

生焔樹空 [Seikojyuku]

凜とした白い焔が
空に浮かび
連なる森樹から次々と葉が散り
地に還る
すつきりとした樹々の空間は
万物が行き交う道
木枯しは
凄まじいエネルギーを生み
焔の潜む
神秘の世界目指して
吹きすさぶ

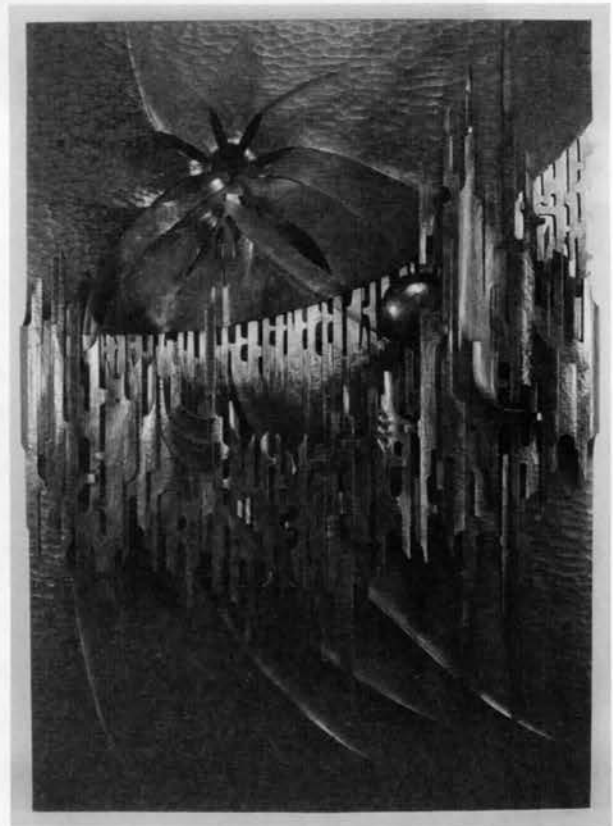
沈黙の天地からの熱き叫び



樹天 200×100

樹天 [Jyuten]

凜とした
嶽々のたたずまい
初秋の葉をまとい
彼方まで連なる樹林
太古より年輪を重ね
天に届けとばかりに
そそり立ち
空と地の間を
群青色に染める
雄大な自然の
気魄 迫り来て
心の奥底を揺する

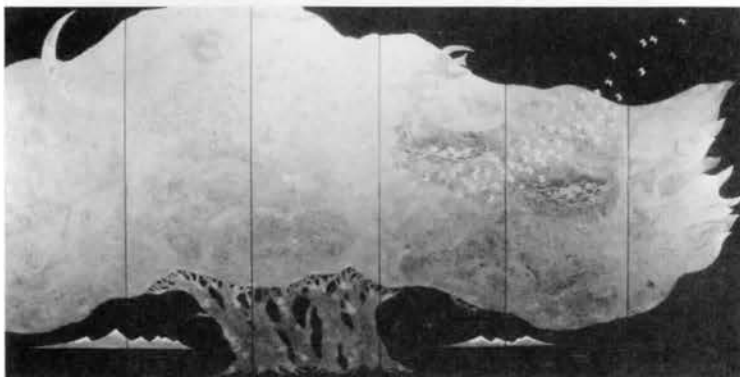


生焔樹空 170×120

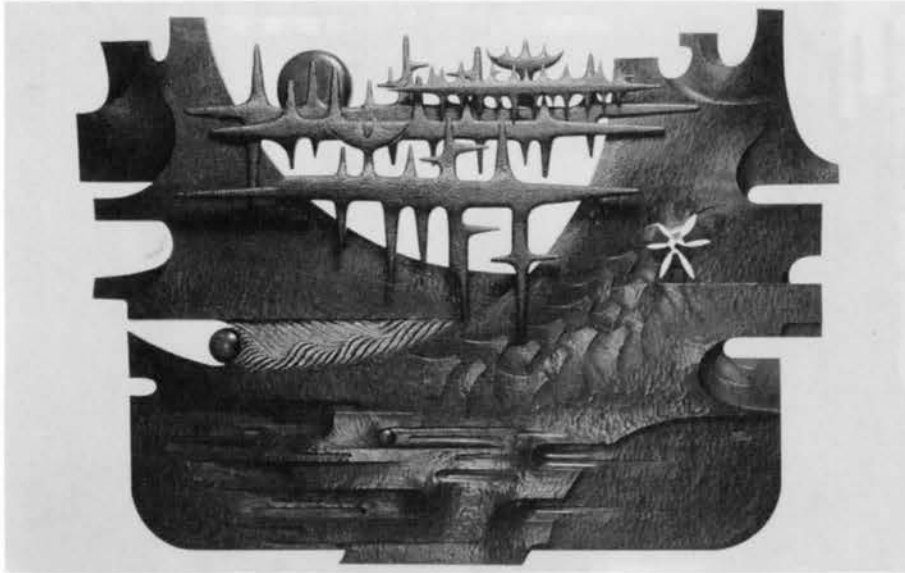
森の記 [Mori no Shirube]

(彫彩)

気高く聳えるアルプスに囲まれた信州
一面を森林が生き生きと覆う
風のうなりに季節の葉が舞い
岩をぬう湧水の流れに
生き物たちが憩い
樹は雄々しく天を衝く
大いなる自然の声を心に記しながら
夢を叶え
未来へと継ぐ



森の記 (彫彩) 360×180



森樹廊 160×120

森樹廊 [Shinkiro]

無限に広がる森樹
その空間を縫って回廊のように巡る光と風は
広大な自然の画面に ある時は静寂に
ある時は荒々しくさまざまに交じり合い
吸い込まれそうに美しい絵模様を表し出す
神秘的な蜃気楼にも似て
不思議な何かを超越した世界を感じる



月天樹天 [Tsukitenjyuten] 500×250

資料等の寄贈ありがとうございました

平成一〇年度までに博物館資料充実のため
新たに次の資料等を寄贈いただきました。

ハーケン(山博打刻入り) 1点

東京都狛江市 三宅 豊

ビッケル等1点、石油ストープ1点

千葉県八千代市 星坂光昭

ビッケル1点

大町市白塩町 渡辺逸雄

絵画(山川勇一郎作) 2点

大阪府東大阪市 福岡義夫

スキー・ストック等13点

石川県金沢市 孫田三郎

図書資料1点

東京都足立区 石川清夫

ランタン等3点

東京都世田谷区 鍋倉秀子

ヤッケ1点

埼玉県浦和市 横川 通

展示パネル1点

大町市社 三光測舎

図書資料1点

東京都大田区 山田 巖

可動式図書棚1点

兵庫県伊丹市 北野祐次

松濤明氏関係資料(山行ノート、ビッケル等
79点)

横浜市戸塚区 松涛 裕

図書資料1点

松本市城東 棚橋雄三

写真7点

大町市神栄町 増村征夫

中部山岳鳩協会関係資料(鳩携帯籠、鳩券等
約200点)

東京都杉並区 三田啓一
(4月号より続き、敬称略)

山と博物館 第44巻第6号

一九九九年六月二十五日発行

発行 千〇〇〇 長野県大町市大字大町八〇五六―一

市立大町山岳博物館

TEL 〇二六―二二一〇二二

FAX 〇二六―二二一〇二二

印刷 奥村印刷

定価 年額一、五〇〇円(送料共)(切手不要)

郵便振替口座番号〇〇五四〇一七―二二九九三